



ユニオンニュース・掲示回覧用

9/2(土)~3(日)
18:30 12:00

地方ユニオン 一泊研修会

神戸 しあわせの村

日本のセーフティネット
について学ぶ(仮題)

講師：沖野充彦さん
大阪希望館事務局長

詳細は案内参照

申し込みは早めに本部まで

関東大震災100年。 朝鮮人大虐殺の事実を目を閉じるな!



1923年9月1日、関東地方に大地震が発生しました。死者は10万人を超えました。そしてその時、多くの朝鮮人が警察や住民によって虐殺されたのです。内閣府の報告書には「関東大震災時には横浜などで略奪事件が生じたほか、朝鮮人が武装蜂起し、あるいは放火するといった流言を背景に、住民の自警団や軍隊、警察の一部による殺傷事件が生じた。」と記載されています。数千人が殺されました。

「朝鮮人が井戸に毒を入れた」という流言飛語がよく引用されていますが、その時の日本人の残忍な行動は事実としてたくさん伝わっています。朝鮮人を町中で探し出し、(追いかけて朝鮮人と疑えば)殴り殺すという異常な行為です。しかし、単にそのような流言飛語があったからということで片付けてはいけません。

真実を見分ける力を持たなければ繰り返す

1910年日本が朝鮮を植民地化したために、朝鮮では独立抵抗運動が絶え間なく行われていました。1919年には3・1万歳運動がおこり、当時日

本にいた朝鮮人も運動に参加しました。また、そのころ、日本では大正デモクラシー(1925年初めての普通選挙)と言われた時代でもありました。

軍国主義の拡大と社会民主主義・自由主義のせめぎ合いの時代で、虐殺されたのは朝鮮人ばかりではなく、中国人や日本人の社会主義者も犠牲になりました。一部誤認の大虐殺も一福田村事件一

国家・軍部に抵抗して独立を叫ぶ朝鮮人たち、日本の民主主義者に対する大弾圧であったと言えます。そしてそれに大量の一般民衆が同調し動員され、虐殺者となったのです。幸い、阪神大震災や東日本大震災の時はこのようなことはありませんでした。

しかし、あいかわらず、ヘイトスピーチは無くなりません。中国・北朝鮮を敵国とする軍事強化も目立っています。それは決して嫌韓・反中の意識と無縁ではありません。

国が戦争に参加するためには、まず、民衆を暴力へ動員しなければなりません。流言飛語が一瞬で広がる現在、私たちに必要なのは真実を見分ける力を身につけ、過去の過ちに目を閉じないことです。



大阪地域合同労働組合の公式アカウントです。分会長はぜひ友達登録してください。本部との連絡がラインでできるようになります。個人加盟の方もできるだけお願いします。